

■俳句の世界／俳句十句（p. 22～25）

◆読解◆

ステップ1

1 ① 十七 ② 七 ③ 五

④ 対比 ⑤ 切れ字

⑥ しだれざくら ⑦ 春

2 ① **例** 華やかではないが、けなげに生きている。

② 董まよひ

ステップ2

【俳句の世界】

1 **例** 五・七・五の定型で表現する。

・一句の中に「季語」を用いる。

※順不同可。

2 ① 桐きりの葉

② 秋の日

3 ① 空

② 桜色（ピンク色）

1 **【俳句十句】**

① 大路おほぢ

② 春

2 イ

3 秋

4 ウ

5 自由律俳句

ステップ3

1 ① オ

② コ

③ キ

④ イ

⑤ ウ

2 (好きな俳句の記号) **例**エ

例 この俳句は緑と白という色を対比させ、情景を色鮮やかに表現している。また、生命力に満ちた「万緑」と「吾子」を並べたことで、明るさや勢いを感じさせる効果がある。さらに、子どもの成長を見守る温かい親心が感じられ、ほのぼのとした気持ちになれるところも魅力である。

情景を想像しながら俳句を味わおう



俳句は、少ないことばの組み合わせで、私たちにいろいろなことを想像させる。一つ一つのことばを丁寧に読み解き、情景を想像してみよう。

(近景) (遠景)

↓山々が連なり、姿勢を正しているように見える。

芋いもの露つゆ 連山影れんざんかげを正しうす

↓露の降りる朝の情景。季節は秋（「露」は秋の季語）。